
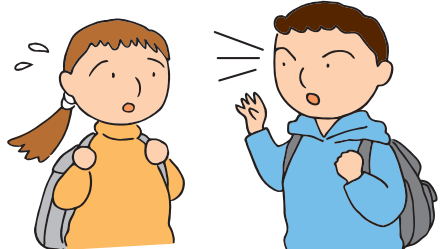


地震時にとるべき行動

経過時間	ポイント
地震発生	<p>大きな揺れは最初の1分間</p> <p>まずは身を守る 机の下などへ 慌てて外へ飛び出さない</p> <p>火は無理して消さない 危険が伴うので無理はしない</p> <p>脱出口を確保する ドア、窓を開ける 家がゆがむと開かなくなることがある</p> 
	<p>揺れが収まってから行動する</p> <p>火元・ガス栓を確認する 火が出たら落ち着いて初期消火 避難をするときはガス栓をしめ、ブレーカーを落とす</p> <p>家族の安全を確保 倒れた家具の下敷きなどでケガをしていないか</p> <p>スリッパか靴をはき足を守る 室内に散乱したガラスの破片などから足を守る ※がけ崩れのおそれがある地域はすぐに避難</p> 
発生後1〜2分	<p>隣近所の安全確認、火災の発生を防ぐ</p> <p>隣近所に声をかけ救出、救護 高齢者や障害のある方、妊産婦・けが人・ 行方不明者の確認、救出・救護</p> <p>近所に火が出ていたら初期消火 大声で知らせる 消火器を使う バケツリレーをする (普段から風呂に水をためておく)</p> <p>余震に注意</p> 
	<p>ラジオなどで正しい情報を入手</p> <p>正しい情報をつかむ ラジオやテレビの情報を聞いたり、SNSなどを活用する</p> <p>電話はなるべく使わない 緊急連絡電話が優先 安否確認は「災害用伝言ダイヤル171」で</p> <p>家屋倒壊などの危険があれば避難</p> 
発生後3分	<p>協力して消火、救出・救護活動</p> <p>助け合いの心が大切 力をあわせて消火活動、救出・救護活動</p> <p>水・食料は蓄えているもので 3日分の飲料水と食料が必要（できれば一週間）</p> <p>壊れた家には入らない 無理をして、二次災害を起こしてはいけない</p> <p>災害情報、被害情報の収集 引き続き余震に注意</p> 
	<p>発生後10分 数時間</p>

日ごろからの対策

＜家庭でできる対策＞
日ごろから家族や地域で避難所や危険箇所などについて、話し合っておきましょう。

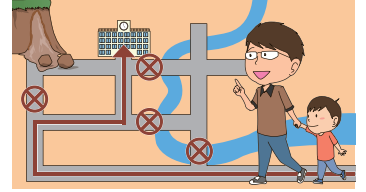
● 家庭での防災会議や防災訓練への参加

- 家の中の安全な場所や、避難所、避難経路、集合場所を事前に決めておきましょう
- 非常持出品の保管場所を確かめておきましょう
- 市や自治会が主催している防災訓練に積極的に参加しましょう

● 非常持出品の準備

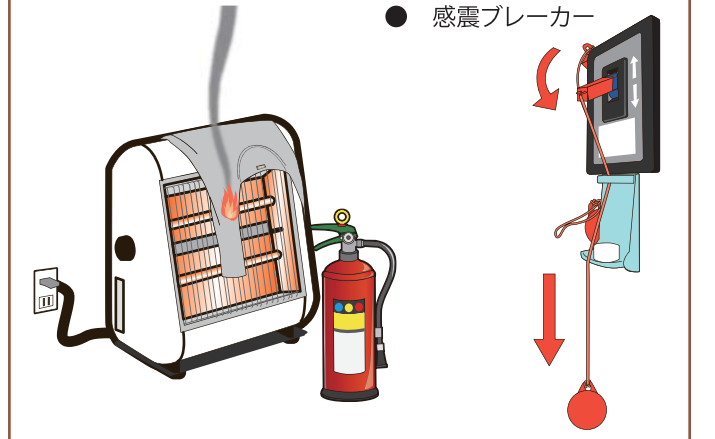


● 避難路等の確認



● 出火の防止

- 初期消火のために消火器や消火用水などを用意しておく
- 阪神・淡路大震災では発生した火災の多くが電気火災とされています。電気火災を防ぐには、感震ブレーカーの設置が有効です。感震ブレーカーは比較的安価に購入することができます



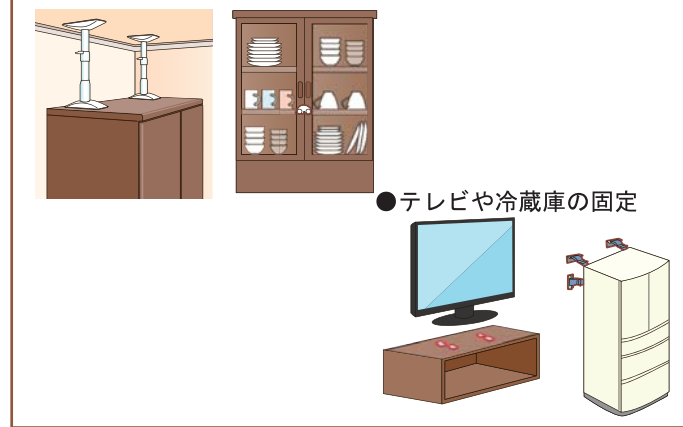
＜被害を防ぐ＞

阪神・淡路大震災では家の倒壊や家具等の転倒による圧死が死因の8割にのぼりました。家具の固定や住宅の耐震化などで、家具や建物の倒壊による被害を低減させることができます。

● 家具の固定

- 家具やテレビは金具やチェーンなどで固定しましょう
- 食器などが散乱しないように、ガラスに飛散防止フィルムを張りましょう
- 戸棚の扉にロック機能をもうけましょう
- 固定できないものには滑り止めをつけましょう

● 棚の固定や食器散乱の防止



● テレビや冷蔵庫の固定

● 住宅の耐震化

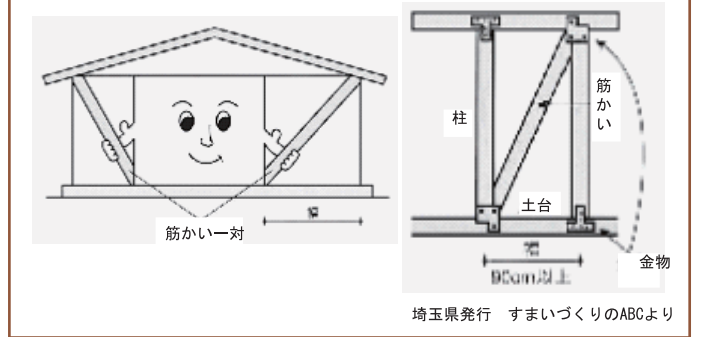
- 市では、地震に強いまちづくりを推進するために、木造住宅の耐震診断・改修の補助事業を行っています
- 2階建て以下の木造住宅では、無料簡易診断を実施しています

＜問い合わせ＞

都市建設部 建築審査課
TEL：2953-1111（代）

● 壁の補強

● 梁と柱の接合部の補強



埼玉県発行 すまいづくりのABCより